

令和五年度 事業報告書

令和五年4月1日から令和六年3月31日まで

特定非営利活動法人 Chance For All

1 事業の成果

足立区において梅島、西新井、関原、千住大橋、綾瀬、六町、墨田区では曳舟、押上にて学童保育施設CFAKidsを運営。足立区関原地域にて、駄菓子屋irodoriを運営。公園あそび事業パークリーダー及び、感情図書館hidamari事業を開始。墨田区にて遊び場事業を実施。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額 (千円)
学童保育事業	足立区、墨田区にて民間学童保育CFAKidsを運営	放課後及び小学校の長期休み期間	足立区 墨田区の各校舎	職員21名 学生ボランティア58名	こども314名 その保護者	130,316
駄菓子屋事業	足立区関原地域にて、フリースペース併設型の駄菓子屋を運営	月～金 15:00-19:00 土日 13:00-18:00	足立区関三通り商店街内	学生ボランティア約61名 (中心メンバー)	こども延約10,985名	1,683
遊び大学事業	墨田区にてこどもが自由に遊べる遊び場づくり	毎月1回日曜日	墨田区千葉大 学墨田キャンパス、墨田区 保育園など	地域ボランティア 延約258名	こども延約2,758名	4,090
公園遊び事業	公園に遊びに来たこどもたちと遊ぶ事業	毎週平日2回 15:00-18:00 月1回 14:00-18:00	足立区西新井 さかえ公園、 足立区東綾瀬 公園内ハト広場	学生ボランティア13名 (中心メンバー)	こども延約1,050名	240
図書館事業	こどもたちが自分の感情に合わせて本を選び、主体的に本から学び、悩みを解決するきっかけを届ける事業	月～金 15:00-19:00 土日 13:00-18:00	足立区関三通り商店街内、 足立区公立図書館内	学生ボランティア14名 (中心メンバー)	計測が難しいが、公立図書館等にもコーナーを展開	2,859

(2) その他の事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	事業費の金額 (千円)

(活動実績)

●学童保育事業について

足立区6校舎、墨田区で2校舎合計8校舎の運営を行い、総勢319名のこどもが在籍。上級生の在籍が増え、喜ばしい反面、定員もあるため一年生の枠がなかなか増えない状態となっている（きょうだいを考慮すると毎年、数人しか入れない校舎も多い）

学童保育事業ではあるが、上級生は自由に入出入りしていたり、学童だけに閉じるのではなく学生チームや地域の人たちと祭りやイベントを開催したりと「放課後のベース基地」といった性格が年を追うごとに強くなっている。

●学生チームについて

学生チームは、2021年に駄菓子屋事業の立ち上げとともに活動を開始した。学生ボランティアとして関わる学童保育事業、学生が運営する駄菓子屋事業の他、2023年度11月にはパークリーダー事業、2月には図書館事業と新たに2つの事業部を設立し、現在は4つの事業を運営している。継続的な組織運営を目指し、会計、GCR(採用・人事)、広報・ファンドレイジングという事業部を横断したチームを作った。夏祭り、ハロウィンまつり、クリスマスフェスタ、みんなの文化祭などのイベントも開催し、夏祭りには2,000人を超えるこどもたちが来場するなど地域で愛され、応援される存在となっている。また、駄菓子屋や公園など日常の中に学生ボランティアがいることで、行き場のないこどもたちにとっての居場所となっている。

●駄菓子屋 irodori について

関原通り商店街にて、すべてのこどもたちが無料で利用できるフリースペースを備えた駄菓子屋を展開している。2022年6月までは週5日営業であったが、2023年度では週7日営業を継続することができ、年間で10,985名のこどもたちが irodori に遊びにきた（イベント参加者を含むと約2万人以上）

不登校の子や学校に馴染めない子、塾などに通っておらず放課後に行き場のない高学年の子など多くのこどもたちの居場所となった。課題となっていた収支について、販売面では、常時駄菓子の在庫があるよう仕入れ改革を行い、大人がいるような出張販売での利益増加のために新たに射的を導入した。11月には駄菓子屋 irodori 初の単月黒字を達成した。運営面では、秋頃スタッフ不足により万全ではない運営体制になったが、年度末頃より現場に入るスタッフが安定し、「人が居場所になる」状態に近づいた。こどもたちからも「〇〇に会いにきた」「今日は水曜だから〇〇いるでしょ」と学生の名前が多くあがるようになっていく。

地域とのつながりの面では、学生チーム主催のイベントを行う際に商店街とコラボするなど商店街の賑わい創出、こどもを見守るまちづくりにも貢献している。衰退が続く足立区の商店街だが、「子育て応援商店街」として生まれ変わった関三通り商店街（CFAの本部や irodori のある商店街）では、CFAのさまざまな事業が起爆剤となり「クレープ屋」「サンドウィッチ屋」などここ一年で4店舗が新たに新店を出すなど盛り上がってきている。チームで動く組織体制が安定化し、高校生メンバーも組織運営に携わるなど、理念達成に向けてより多くのメンバーが関わっている。

●パークリーダー事業について

本事業は、あそびに大切な時間・空間・仲間と呼ばれる三間の喪失が問題視されていること、また平日に一度も外遊びができない小学生が8割を超えてしまっているという課題感から、パークリーダーと呼ばれる学生が公園に行きこどもとあそぶことで放課後の時間を友人と楽しく過ごせるための環境構築を目的とし、8月から事業立ち上げの構想を開始。11月に初回活動を始め、今も継続的に活動している。11月は西新井さかえ公園での活動、12月からは西新井さかえ公園に加え東綾瀬公園内ハト広場の二箇所で開催している。2月から活動中の公園にてチラシ配布を行い、本事業の周知によりこどもが安定的に公園に来るようになった。11月の活動から、5ヶ月間で35回実施。延べ約1,050人のこどもたちと関わる。本事業所属の中心学生メンバーも立ち上げ期は5名だったが13名に増え、持続的な活動が見込める。

●感情図書館 hidamari について

日本中のこどもたちが自ら小さな希望を見つけることができる居場所を目指し、こどもたちの感情で本を分類している。12月にクラウドファンディングを行い、285万円の立ち上げ資金を獲得した。2月に駄菓子屋 irodori フリースペース内に1号館をオープンした。オープンに向けて図書館づくりのワークショップを2回開催し、こどもたちとクラファンで支援してくださった方と共にフリースペースの壁のペイントを行った。オープン後は、運営メンバーで定例ミーティング・選書ミーティング・対面ミーティングを実施するなど、まずは感情図書館としての運営体制を確立することを目指している。運営メンバーが実際に本を読み、選書と感情分類を行っており、現在35冊蔵書している。図書館系の外部イベントに呼ばれたり、足立区の公立図書館で感情図書館コーナーが設置されてコラボするなどCFAの外での活動も活発化している。

●あそび大学について

墨田区で行っている遊び場事業で、毎月 1 回日曜日に墨田区にある千葉大学にて開催。4 団体が協働で行っており、千葉大学環境デザイン研究室、墨田区の社会教育団体である一般社団法人 SSK、Seki design Lab. と連携している。あそび大学には、年間で約 2,758 名（登録せずに遊んでいる子も含めると 4,000 名程度）の子どもたちが訪れる遊び場を作っている。また夏休み期間中には、なつのあそび大学企画として「こどもの国」と称し、子どもたちが自分たちで自分たちの国を作る企画を実施。企画メンバーの子どもたちと国づくりから準備を行った。

近隣ではあそび大学が定着し、子どもたちだけであそびに来ることが増えた。また、夏休みにどこにも出かけられない家庭の子どもたちにとってなつのあそび大学は最高の思い出となっており、多くの保護者から感謝の言葉が届けられた。

●その他

CFA 創立 10 周年。10 周年記念式典では、CFAkids 在校生、卒業生、またその保護者の方々、地域の方々や連携企業の方々など 940 名が参加。また、10 周年を機に理念を新たにし、ホームページの刷新とロゴの変更を実施。10 周年記念誌の作成も行った。

商店街や町内会のお祭りに参加、また地域の方へ向けたお祭りやコラボ企画を 10 回以上実施した。これまでの CFA はどちらかというと自分たちの考えを曲げずに独自の活動を行ってきたが、ここ数年間は多くの地域で活動されている方々と対話し、みんなで子どもたちにとってよりよい地域を育てていくという仲間づくり、まちづくりに力を入れている。